

The Principal Report

校長通信（6月号）

JUNE / 1ST / 2026 / VOL 047

「Be Playful 楽しいは全ての源泉」な話

先日、国語科のレジェンドである山田光行先生が勤続40年を迎えられました。山田先生といえば、長年にわたって学年主任としてリーダーシップを発揮し、本校の教員代表として静岡県私学協会の中でも一目を置かれ、学校内外で慕われてきました。そんな山田先生が、本校の法人理事会・評議委員会のお祝いの席で永年勤続表彰を受賞した際、「教員人生の中で、今が一番楽しい」とおっしゃっていました。授業改善、ICT活用、評価方法の変化など、目まぐるしい変化の中にいますが、山田先生は今が一番楽しいのだとか。

そもそも、「楽しい」と「楽しむ」は根本的に異なるものです。テレビをみている時、スマホで動画を見ている時、ライブ会場で好きなアーティストの音楽を聴いている時、人は楽しいと感じますが、自分が主体というよりも、どちらかという受け身の状態です。逆に、以前から計画してきた旅行を楽しむ、部活動の練習を楽しむ、学校行事を仲間と共に楽しむなど、楽しもうとしている時、その行動の主体は自分となります。つまり、楽しむ側なのか、楽しませられる側なのかです。楽しむ側である時、それが楽しくなければ、原因は楽しもうとしていない自分にあります。もっともっと楽しむために、いろんな視点で本気で取り組まなくてはならないという考え方になるでしょう。一方、楽しませられる側である時、楽しくない、面白くない、つまらないと感じるのは、それを提供する側に原因があるということとなります。自分を楽しいと感じさせてくれない相手が悪いという、文句や他責思考（人のせい）につながっていきます。「する側」か「される側」かで、これほど大きく変わってきってしまうんですね。

さて、もう一つ。楽しむということには重要な側面があります。自分にプラスと感じることを楽しむことは簡単ですが、自分にとってマイナスな状況を楽しむことはとても困難です。しかし、このマイナスな状況（逆境）を楽しむことには非常に大きな意味があります。僕たちは逆境を目の前にした時、気分も落ち込み、心も沈み、逃げてしまいたいほどの気持ちになるものです。人間関係のもつれ、学力の伸び悩み、部活動の怪我、あるいは絶体絶命のピンチといった状況などです。思った通りにいかない時、人は大きなストレスを感じるもので、それは当たり前前の反応と言えます。でも、その状況を人のせいにしても改善することは期待できません。どんなに逆境に立たされたとしても、それを楽しむことを大切にしてもらいたいと思います。逆境（ピンチ）を乗り越えた後には、必ずチャンスがあると言いますが、それは間違いなくそうだと思います。なぜなら、逆境と直面した時、人は成長するからです。それまで考えなかった自分の弱さと向き合い、相手を理解し、状況を分析し、現状の打開策を必死で考え、なんとか乗り越えようと道を見つけようとします。調子がいい時にそんなことは考えません。成功している状態、うまく行っているときは、何も考えていないのです。うまくいかない時こそ、失敗した時こそ、成長できるのです。だから、その瞬間は楽しむべきなのです。

私がオーストラリアに留学した時、うまくいかないことの連続でした。思っていた通りにいかないことが多すぎて、自分の無力さを痛感する日々で、何回も日本に帰りたかったです。ある時、英語力のことでも友人に相談したところ、彼は僕にこう言いました。「そもそも、楽しんでる？まずは楽しむことが大事だろ。」楽しむわけないだろ、この状況で！とその場は思いましたが、ふとそれまでを振り返ってみると、逆境を悲観的に受け止めているだけで、全く楽しもうとする姿勢がなかったと気づきました。今は大変だけど、これを乗り越えたら強くなれるのかも、考え方を変えてみたのです。そこから、僕の留学生活は大きく変わりました。いろんなことがうまく行くようになりました。うまくいかないことですら、楽しめるようになりました。逆境を楽しむことで見出した、新しい自分の開拓だったのだと思います。

スクールモットー「Be Playful 楽しいは全ての源泉」という言葉の本質は2つ。自分自身が「楽しむ側」であるということと、「逆境こそ楽しむ」ということです。我慢とはちょっと違う。楽しむことができる人は我慢もできるということです。山田先生も、今が一番大変だと思いますが、今が一番楽しい。大変なことこそ楽しむということ、御殿場西高校の生徒と先生たちは大切にしてほしいと思います。

仰高祭（体育の部）2026が開催されました。

5月27日（水）仰高祭（体育の部）が開催されました。天候が心配される中での実施でしたが、雨に降られることもなく、過ごしやすい天気の中、大きな事故もなく実施することができました。今年もさまざまな種目が繰り広げられ、生徒たちが一生懸命に取り組む姿がとてもすばらしかったです。また、それを応援するスタンドの生徒たちの声援の大きさにとても驚きました。開会式でも伝えましたが「頑張る仲間を全力で応援する」ことを今回は特に大切にしたいと思っていました。競技の結果そのものよりも、それに向かうそれぞれの姿勢、そしてそれ以上に仲間を全力で応援できることのほうが尊いものです。御殿場西高校の一番の自慢は、生徒たちのそんな姿だと思っています。こんな生徒たちのいる学校で校長をさせてもらえることを心から幸せに感じる日となりました。



SEJプロジェクトが始動

進学選抜の鈴木ゆなさんと、猪頭このかさんが中心となりSEJプロジェクトがスタートしました。「環境問題、教育、地域活性化、福祉など、多様なテーマについて対話を行いながら、「高校生だからこそできる課題解決とは何か」を探究していきます。単なる語学交流ではなく、国境を越えて社会課題について協働的に学び合う、実践型のグローバル教育プログラムです。当日は、オーストラリア、フィリピン（カオハガン島）、パプアニューギニア、タイの中学・高校生たちとオンラインつながり、それぞれの地域や国が抱える社会課題について意見交換を行います。



地域探究2.0が始動

昨年に引き続き、探究ゼミ（2年）を担当させていただきまます。今年は竹中先生と工藤先生との合同ゼミということで、総勢45名の大人数でのゼミ活動となっております。地域活性化をより多角的な視点で仕掛けていきます。グローバルな視点も取り入れながら、ローカルにアクションを起こしていく「Think Globally, Act Locally」をこのゼミの活動の中で実践していきたいと思ひます。大切なことは、誰かのために何か役に立ちたい、自分の住む地域社会に対して当事者としての意識を高めていくことです。未来を切り開くのは自分たち。とにかくやってみよう。



保護者の皆様へ

本校の教育活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。5月はさまざまな学校行事があり、生徒たちも充実した毎日を過ごすことができています。5月27日に開催された仰高祭（体育の部）には、多くの保護者の皆様が応援に駆けつけてくださり、イベントは大盛況となりました。ここからは定期試験に向けて、日々の学習に加えて、1学期の総復習のシーズンとなります。それぞれの目標を達成するため、早めの準備をしていただきたいと思います。ご家庭でのサポートよろしくお願ひいたします。

- 6月の主要行事
- 6月13日（土）保護者会主催 奉仕活動
 - 6月15日（月）職員会議（午前授業）
 - 6月16日（火）第2回 献血
 - 6月29日、30日、7月1日 1学期期末試験

2026

JUNE

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				